



# Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

## 神戸こども初期急病センター



2012年4月受診者数：2558人

### 訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1557人 (1233人)
2. 咳 : 1054人 (218人)
3. 鼻汁 : 804人 (17人)
4. 嘔吐 : 706人 (353人)
5. 頭痛 : 502人 (106人)

### 疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 813人
2. 感染性胃腸炎 : 668人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 204人
4. インフルエンザ : 177人
5. 気管支炎・肺炎 : 126人



## 今月のワンポイント!



季節が変わり暖かくなってきました。そのため、神戸こども初期急病センターへの受診患者さんの数は、3月が3261人であったのに比べ、4月は2558人と少なくなりました。1月～3月にかけて、猛威をふるっていたインフルエンザも、かなり少なくなっています。4月に当センターでインフルエンザ迅速検査を行った患者さんでは、A型7人、B型102人であり、ほとんどがB型でした。感染症情報センターからの報告によると、全国的にもこのような傾向にあるようです。

感染性胃腸炎は、12～1月を流行のピークとして、減少傾向にありましたが、4月は3月に比べて、若干、増加がみられます(3月は398人)。兵庫県感染症情報センターからの報告でも、兵庫県全体で、4月に入り感染性胃腸炎の増加がみられているようです。感染性胃腸炎は寒い季節の病気と思われていますが、季節がよくなっても、油断しないで手洗いなどこまめに行ってください。

4～5月は1年の中でも過ごしやすい季節で、こどもの急病の多くを占める感染症も、少なくなります。しかし、季節が進み、梅雨の季節になると、喘息発作が起こりやすくなりますし、夏が近づくと、いわゆる「夏かぜ」と言われるウイルス感染症の流行がみられます。昨年も、6月頃から手足口病の大流行がありました。手足口病は、感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに数mmの小水疱の発疹が出ます。臀部に発疹がみられることもあります。熱は出ることも出ないこともあり、通常は数日で治りますが、時に髄膜炎などの合併症を認めることもあります。また、昨年流行した手足口病は、小水疱の範囲が広く、みずぼうそうかと思われるような患者さんが多数いました。今年がどのような流行状況になるのかわかりませんが、季節ごとに流行する可能性のある病気がある程度わかりますので、知識として頭の片隅に置いておくと、何かの時に役に立ちます。Emergency Watchのバックナンバーを見返してみることも、いいかもしれません。

神戸大学小児科のホームページがリニューアル致しました。  
是非、ご覧ください。<http://www.med.kobe-u.ac.jp/pediat/>